

# 2026 年度 医学部地域医療臨床実習 実施要項

担当指導医師・メディカルスタッフ

●地域医療実習施設の指導医・メディカルスタッフ

●本学 教授：伊藤智範、教授：高田亮、特任講師：相澤純

## 1. 到達目標 (SBOs)

卒業時コンピテンシーを念頭に、

### (1) 患者中心の医療

日々の回診を通して、病状を把握するとともに、担当する患者さんと十分なコミュニケーションをとり、不安や苦悩に対し患者さんの立場にたって問題解決に臨むことができる。

### (2) チーム医療

a) 学生は指導医の下、チームの一員として患者さんを担当し、その中で主治医としての責務を修得するとともに、スチューデントドクターとして必要な基本的技能を実施できる。

b) 医療スタッフの専門性を理解・尊重し、十分なコミュニケーションをとることで、チーム医療の一員として貢献できる。

### (3) 総合診療

患者さんに対し、医療面接・基本的診察を実施し、得られた所見から臨床推論を行い、指導医に要約を説明するとともに、カルテへの適切な記載ができる。

### (4) 地域包括ケアシステム

a) 地域包括ケアシステムに関連する複数の連携施設での実習を体験し、各施設の役割とそこでの医師の役割について述べるができる。

b) 患者さんの入院から社会復帰までに密着することにより、その地域の地域包括ケアシステムの枠組みと問題点を考察できる。

c) 予防医学の観点から、行政・医師会などが行う保健・衛生に関する活動に参加し、地域住民の予防・健康教育ができる。

### (5) 実習を行った地域における地域医療

a) 大学病院における医療と地域医療の違いを理解し、それぞれの具体的なメリット・デメリットを説明できる。

b) その地域の特性と直面する医療の問題を抽出できる。

## 2. 実習内容

(1) 各医療圏（二次医療圏）の概要を、実習開始前にあらかじめ学習しておく。そこで、地域の問題点を把握しておく。地域全体の医療機関の概略、産業構造、高齢化率、食生活上の問題点、地理的、ならびに受診や救急搬送に関連する交通の問題点などを調べる。

(2) 各医療圏へ出向いて、4 週間ないし 8 週間滞在する。その医療圏内で、中核病院、診療所や介護施設などを回り、地域の中で患者さんが急性期病院へ入院してから、退院・通院・リハビリテーションをするまでの全体の流れを知る。また、地域包括支援センター、保健所などの行政組織がどのように医療にかかわっているかを把握する。

(3) 診療参加型臨床実習に準じて、各医療機関で本学医行為基準の範囲で、医療面接、処置などを行う。

(4) 地域医療実習で、医療機関以外の施設には、どのような患者さんが暮らしているかを把握する。

(5) 多職種それぞれの立場を知り、専門家として尊重しながら、医療チームに参加する。自ら他の職種の専門領域を学び、多職種によるカンファレンスに参加し、担当する患者さんに関して、意見を述べる。

(6) 健康教室・症例発表などの機会があれば、積極的に行う。

3. 実施期間：前 半：2026 年 9 月 28 日(月)～10 月 23 日 (金)

後 半：2026 年 10 月 26 日(月)～11 月 20 日 (金)

8 週間：2026 年 9 月 28 日(月)～11 月 20 日 (金)

#### 4. その他

この科目は、医療人として社会に貢献する前に行うインターンシップである。しかしながら、実際の医療機関における実務研修であり、社会人としての行動規範が要求される。指導医、メディカルスタッフ、患者と家族の皆様および地方の皆様、全ての方に対して謙虚に教を請う姿勢で臨むこと。自己本位の勝手気ままな行動は厳に慎み、決められた時間を厳守し、ふるまいと態度、身だしなみと言動に、医師と同等の規範が要求される。また、自分なりに努力したと思っても、叱責される場面もあるかもしれない。しかしそれは、社会人として不適切な行動は学生のうちから矯正しなければならないということからなされる指導であると心得、自己の行動の改善に役立てられたい。また、昨今実習態度が不適切な学生がいると地域医療機関から連絡を受けている。実習先は、本学の学内ではなく、しかもさまざまな大学の卒業生である医師が勤務している。常に、医師だけでなく、多くの医療スタッフから監視されて、評価対象となっていることを忘れずに取り組むことが重要である。

#### 5. 実習前に各医療圏でリストアップすべき施設

医療機関（病院と診療所）、地域包括支援センター、保健所、市町村保健センター、老人福祉施設など

#### 6. 各自準備する物品

##### 教科書

1. 改訂コアカリ準拠『地域医療学入門』改訂第2版（もっともまとまったテキスト）  
監修 全国地域医療教育協議会
2. 内科診断学（医学書院：オンラインでも閲覧可能）
3. 内科学書（中山書店）

##### 参考書

1. 朝倉書店內科学（朝倉書店）
2. ハリソン内科学（MEDSi）
3. 新臨床内科学（医学書院：オンラインでも閲覧可能）

ほか

公衆衛生学に関する教科書・参考書（例えば QB 公衆衛生）

診療に用いるもの

聴診器・名札（本学のもの・スチューデントドクター認定証）・スクラブ・白衣・ノートパソコンあるいはタブレット端末

#### 7. 評価

以下の項目③から⑥の提出を前提に、①で総括評価を行う。

【総括評価】：①指導医評価（e ポートフォリオ）

【形成評価】：

- ②入院患者さんの実習生に対する評価（紙）
- ③多職種による学生評価（紙 or Google フォーム）
- ④Mini-CEX（簡易版臨床能力評価）（e ポートフォリオ）
- ⑤日々の振り返り/経験症例・症候（e ポートフォリオ）
- ⑥学生による評価アンケート（Webclass）

評価方法については別紙「評価要領」を参照